

# 2018年3月期決算概要

---

テルモ株式会社

常務執行役員

北畠 一明

2018年5月9日

# 売上・全ての利益において過去最高を更新

(億円)

	16年度累計		17年度累計		増減率	為替除く 増減率
	IFRS	日本基準	IFRS	日本基準		
売上収益	5,142	5,142	5,878	5,878	+14%	+11%
粗利益	2,738 (53.3%)	2,780	3,193 (54.3%)	3,272	+17%	+12%
一般管理費	1,509 (29.4%)	1,677	1,710 (29.1%)	1,941	+13%	+10%
研究開発費	324 (6.3%)	337	413 (7.0%)	409	+28%	+26%
その他収益費用	-28	-	16	-	-	
営業利益	878 (17.1%)	766	1,086 (18.5%)	922	+24%	
<b>調整後営業利益</b>	<b>1,046 (20.4%)</b>	<b>973</b>	<b>1,249 (21.3%)</b>	<b>1,210</b>	<b>+19%</b>	<b>+12%</b>
税引前利益	749 (14.6%)	750	1,066 (18.1%)	893	+42%	
当期利益	550 (10.7%)	542	913 (15.5%)	756	+66%	

USD 108円

111円

EUR 119円

130円

期中平均レート

- 売上収益 : 心臓血管カンパニーの全事業が二桁伸長し全体を牽引
- 調整後営業利益 : 売上収益の大幅増が販管費の増加をカバーして二桁伸長
- 税引前利益 : 16年度 IFRSでは有価証券売却益等はP/L計上せず
- 当期利益 : 17年度 米国税制改革による、法人税等の一過性の減少 (153億) もあり大幅増

# IFRS（国際会計基準）での開示スタート

日本基準との主な違いは？（17年度ベース）

（億円）

日本基準	
売上高	5,878
売上原価	2,605
<b>売上総利益</b>	<b>3,272</b>
販売費及び一般管理費（※1）	2,350
<b>営業利益</b>	<b>922</b>
持分法による投資損益	4（損）
営業外損益	33（損）
<b>経常利益</b>	<b>885</b>
特別損益	9（益）
税金等調整前利益	893
法人税等	137
<b>当期純利益</b>	<b>756</b>

I F R S	
売上収益	5,878
売上原価	2,684
<b>売上総利益</b>	<b>3,193</b>
販売費及び一般管理費（※1）	2,124
その他の収益及び費用	16（益）
<b>営業利益</b>	<b>1,086</b>
金融収益及び費用（※2）	17（損）
持分法による投資損益	2（損）
経常利益	
<b>税引前利益</b>	<b>1,066</b>
法人所得税費用等	153
<b>当期利益</b>	<b>913</b>

会計基準変更による影響	
	—
SGAから技術資産償却	86
のれん非償却	-140
研究助成金	+14
開業費非償却	+11
営業外・特別損益・その他	-9（損）
営業外から	17
SGAから事業税	8

（※1）開発費含む （※2）為替差損益含む

# 調整後営業利益とは

IFRSの営業利益より、下記項目を調整した利益

- ① 買収により取得した無形資産の償却費
- ② 買収関連費用や日本基準の営業外・特別損益等に含まれる一時的な損益

(億円)

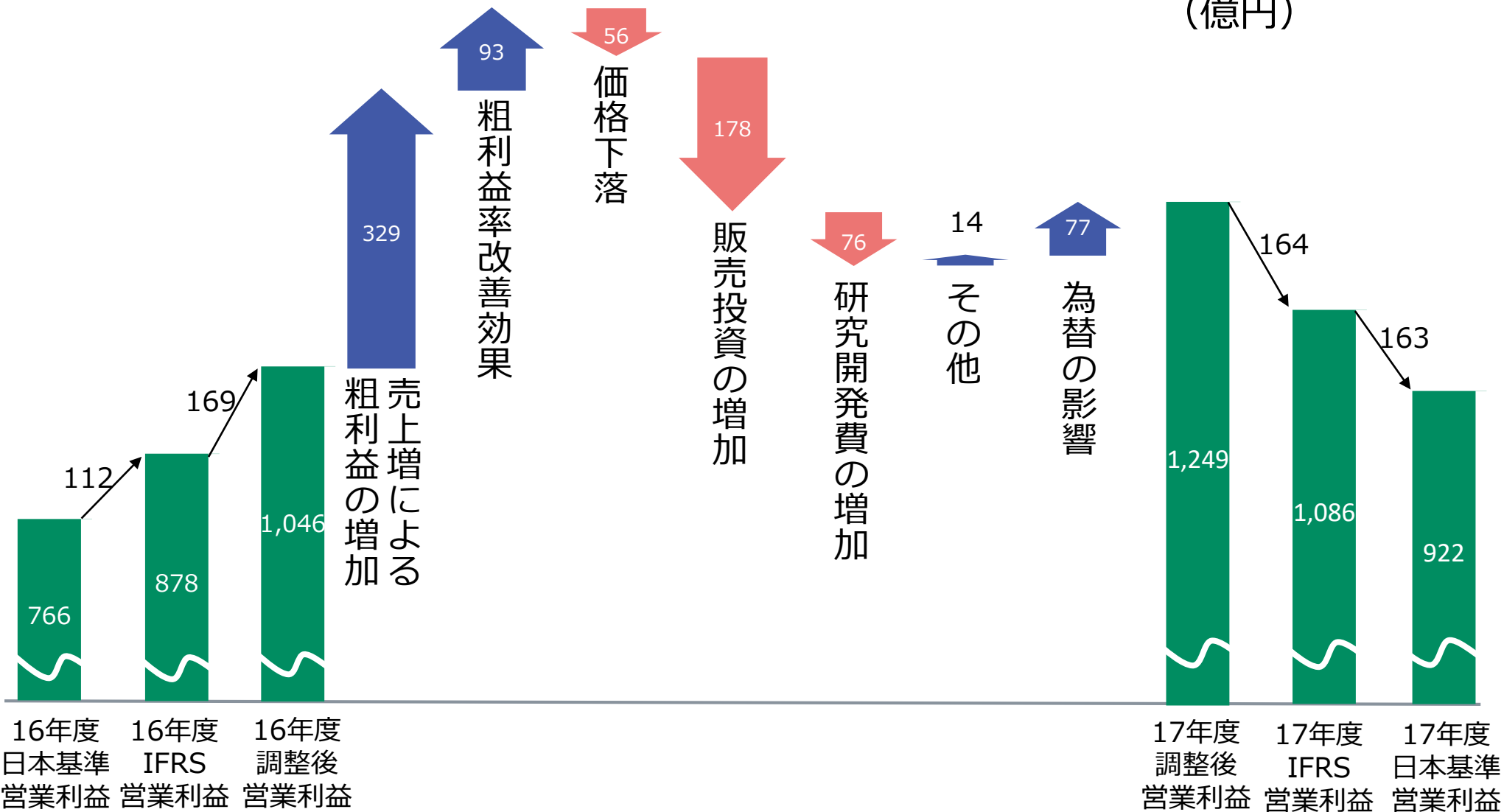
	16年度累計	17年度累計
①買収無形資産の償却費	94	145
②一時的な損益 ※	74	19
調整額	169	164

## ※調整項目

- 買収関連費用
- 買収無形資産償却費
- 訴訟関連損益
- 減損損失
- 事業再編費用
- 損害保険収入
- 災害による損失
- その他一時的な損益

# 調整後営業利益増減分析 (IFRS)

(億円)



# 地域別売上収益

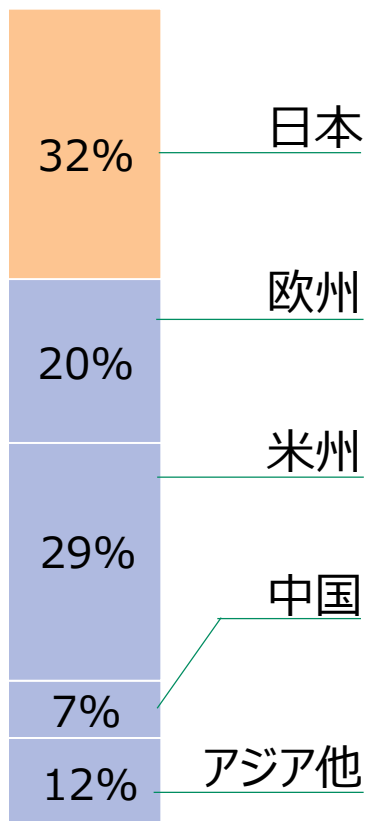
■ 17年度累計  
■ 16年度累計

## 売上収益

100% = 5,878億円

## 売上収益前年比較

	金額(億円)	増減率	コメント
	( ) 内は為替影響除く		
日本	1,889 1,870	+1%	心臓血管ではアクセスや血管内診断デバイス等のTIS製品に加え、人工血管関連が牽引。血液システムにおいて、アフェレシス治療が伸長
欧州	1,182 950	+24% (+15%)	全カンパニーにおいて二桁伸長達成
米州	1,716 1,397	+23% (+20%)	全カンパニーでプラス伸長。心臓血管は3割増。血液システムも二桁伸長
中国	415 345	+20% (+16%)	全カンパニーにおいて二桁伸長を達成
アジア他	676 579	+17% (+11%)	心臓血管の全事業と血液システムが二桁伸長を達成



# カンパニー別売上収益

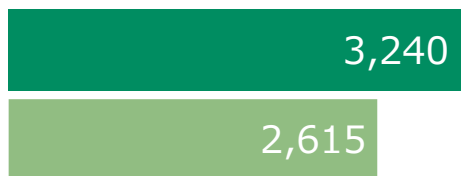
■ 17年度累計  
■ 16年度累計

## 売上収益

100% = 5,878億円



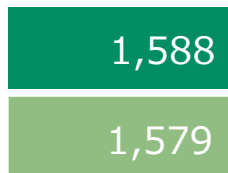
心臓  
血管



+24%  
(+19%)

買収の効果も加わり、全事業で大幅な伸長を達成。買収を除いても全事業で二桁伸長

ホスピタル



+1%  
(-1%)

国内では、輸液ラインや疼痛緩和製品が牽引。海外は、欧州を中心にアライアンス事業が伸長

血液  
システム



+11%  
(+6%)

海外の血液センター向け製品が、新興国で二桁伸長。アフェリシス治療は一時的な買換え需要も重なり大幅伸長

( ) 内は為替影響除く

# 心臓血管：全事業で二桁増収達成

(億円)

	16年度 累計	17年度 累計	増減率	主なトピック	金額
--	------------	------------	-----	--------	----

( ) 内は為替影響除く

売上 収益	2,615	3,240	+24% (+19%)	為替の影響	+125
				TIS : 止血デバイスが大きく貢献。既存事業も海外中心に全領域で堅調に推移	+342
				ニューロ : グローバルでハイドロゲルコイルが、先進国中心に吸引カテーテルが伸長	+53
				CV : 米アナーバー工場品の出荷再開	+41
				血管 : 胸部ステントグラフト中心に堅調	+64

調整後 営業 利益 (率)	673 (26%)	836 (26%)	+24% (+15%)	買収した止血デバイス含め、売上拡大により大幅増益。収益性の高い製品や、高価格帯市場での伸長が寄与し高収益性維持	
------------------------	--------------	--------------	----------------	---	--



# ホスピタル：着実に収益性改善

(億円)

	16年度 累計	17年度 累計	増減率	主なトピック	金額	
売上 収益	1,579	1,588	+1% (-1%)	為替の影響	+17	
				医療器	国内は輸液ライン等が牽引。欧米は低収益事業の整理、亜中は堅調	-8
				医薬品	輸液剤の低調を疼痛緩和や癒着防止材等の伸長で相殺	-1
				ヘルスケア	低収益な国内外アカウントの整理	-5
				アライアンス	海外で医薬品同梱品が伸長	+7
				調整後 営業 利益 (率)	244 (15%)	268 (17%)

( ) 内は為替影響除く

# 血液システム：前年度に底を打ち収益回復基調

(億円)

	16年度 累計	17年度 累計	増減率	主なトピック	金額
				( ) 内は為替影響除く	
売上 収益	945	1,047	+11% (+6%)	為替の影響 (対ドル ユーロ安)	+43
				血液センター : 米国は安定成長へ回帰	
				新興国で二桁伸長	+23
				アフレス治療 : 後継装置への切り替え	
				特需 (+20)	+35
調整後 営業 利益 (率)	152 (16%)	151 (14%)	-1% (-5%)	IFRS移行によるギャップ差 (研究開発費の資産化) 日本基準では、利益率維持。 Q4において、米国工場における効率化プロジェクト 開始に伴う一時的な費用発生	

# 17年度 主なトピックス

## 全社

- 17年度グッドデザイン賞を受賞（10月）
- 4年連続「健康経営銘柄」に選定（2月）



「ビジキューブ、アルタビュー」 「エレマーノ2」

- がん就労支援制度において、厚労省より「がん対策推進パートナー賞」を、東京都より「優良賞」を受賞（2、3月）

## 事業

- 愛鷹工場内にイノベーション拠点「マスターセンター」開設（5月）
- 米カリフォルニア州で脳・末梢血管領域の研究開発・生産を担う拠点開設（9月）
- テルモ山口での新棟建設を発表。カテーテル生産体制強化（12月）
- シリコンバレーの開発拠点2カ所を統合、「テルモベイエリアイノベーションラボ」開設（1月）
- 子会社バスクテック社・本社工場への50億円投資を発表。生産設備拡充（2月）

# 17年度パイプライン製品のローンチ状況

領域	製品		地域
心臓	PTCAバルーン		米: FY18
ペリ フェラル	ステント(TRI)	★	FY18
	PTAバルーン(TRI)	★	FY18
	PTAガイディングシース(TRI)	★	FY18
	薬剤塗布バルーン	◎ ★	欧: FY18
	塞栓コイル	◎	済み
脳	プロテクションデバイス		済み
	ハイドロゲルコイル 3D		済み
オンコロジー	放射線塞栓ビーズ	★	済み

◎ 業績貢献 大、★ イノベーション度 高

領域	製品		地域
CV	人工心肺装置(再出荷)	◎	済み
	次期・人工肺	◎	日・欧・米 FY18
医療器	縦型・輸液ポンプ		日: 済み
	抗がん剤暴露防止システム		済み
DM	パッチ式・インスリンポンプ	★	日: 承認
血液	次期・成分採血装置ソフトウェア		日: 済み

# 18年度業績予想 (IFRS)

(億円)

	17年度 実績	18年度 業績予想	増減率	16~18年度 CAGR
売上収益	5,878	6,080	+3%	+9%
営業利益 (率)	1,086 (18.5%)	1,145 (18.8%)	+5%	+14%
調整後営業利益 (率)	1,249 (21.3%)	1,285 (21.1%)	+3%	+11%
当期利益	913	835	-9%	+23%

為替レート

USD 111円

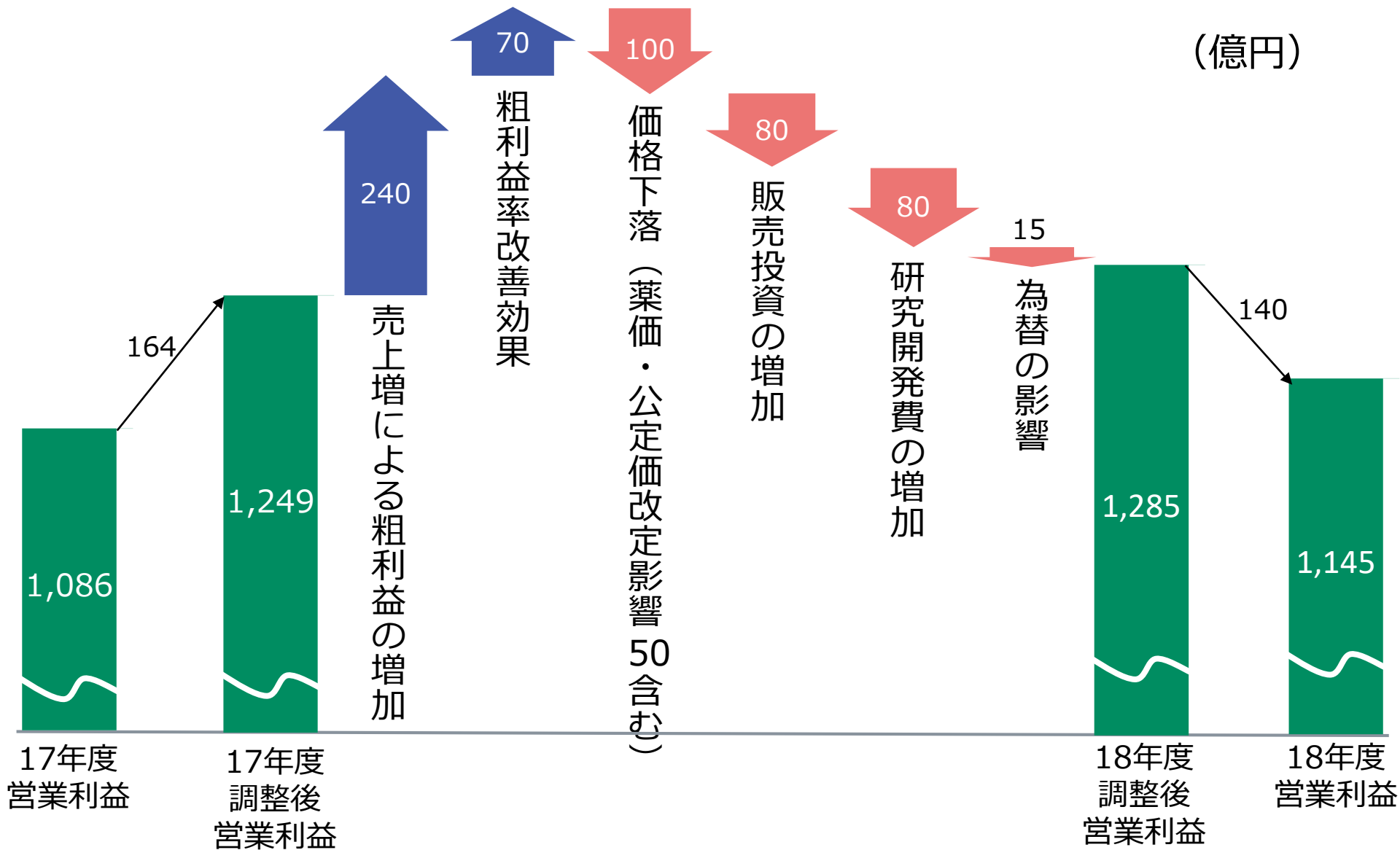
105円

EUR 130円

130円

# 業績予想 調整後営業利益 (IFRS)

(億円)



# 18年度業績予想

	売上収益		調整後営業利益		コメント
	金額 (億円)	増減率	金額 (億円)	増減率	
心臓血管	18年度	3,410	26%	875	薬価・公定価引下げ、為替、外科事業のスローダウンを考慮すれば、これまでのモメンタム継続
	17年度	3,240	26%	836	
ホスピタル	18年度	1,630	15%	250	山口工場の償却開始、開発費（アライアンス・DM等）の増加等により営業利益率低下
	17年度	1,588	17%	268	
血液システム	18年度	1,040	16%	165	為替、FY17のアフレシス治療装置の特需の影響で売上は微減。 営業利益は回復基調
	17年度	1,047	14%	151	

# 18年度パイプライン製品

領域	製品		地域
アクセス	ディスタラジアル用止血デバイス		日
心臓	PTCAバルーン		米
	PTCAバルーン		日欧亜
	DES (Ultimaster Tansei)	◎	日欧亜
ペリフェラル	ステント (TRI)	★	日米
	PTAバルーン (TRI)	★	日米
	PTAガイドングシース (TRI)	★	日米
	薬剤塗布バルーン	◎ ★	欧
脳	中間カテーテル (Sofia EX)		欧米
	アシスト・バルーン		欧米

領域	製品		地域
CV	次世代人工肺	◎	日・米
	次期・血液モニター		欧・米・亜
血管	胸部用ステントグラフト (低プロファイル)	★	欧
	腹部用ステントグラフト (アナコンダ細径)		欧
医療器	静脈可視装置		日
DM	パッチ式・インスリンポンプ		日
血液	次期・成分採血装置ソフトウェア		欧米亜
	自動製剤化装置・新ディスポ		欧米亜

◎ 業績貢献 大、★ イノベーション度 高

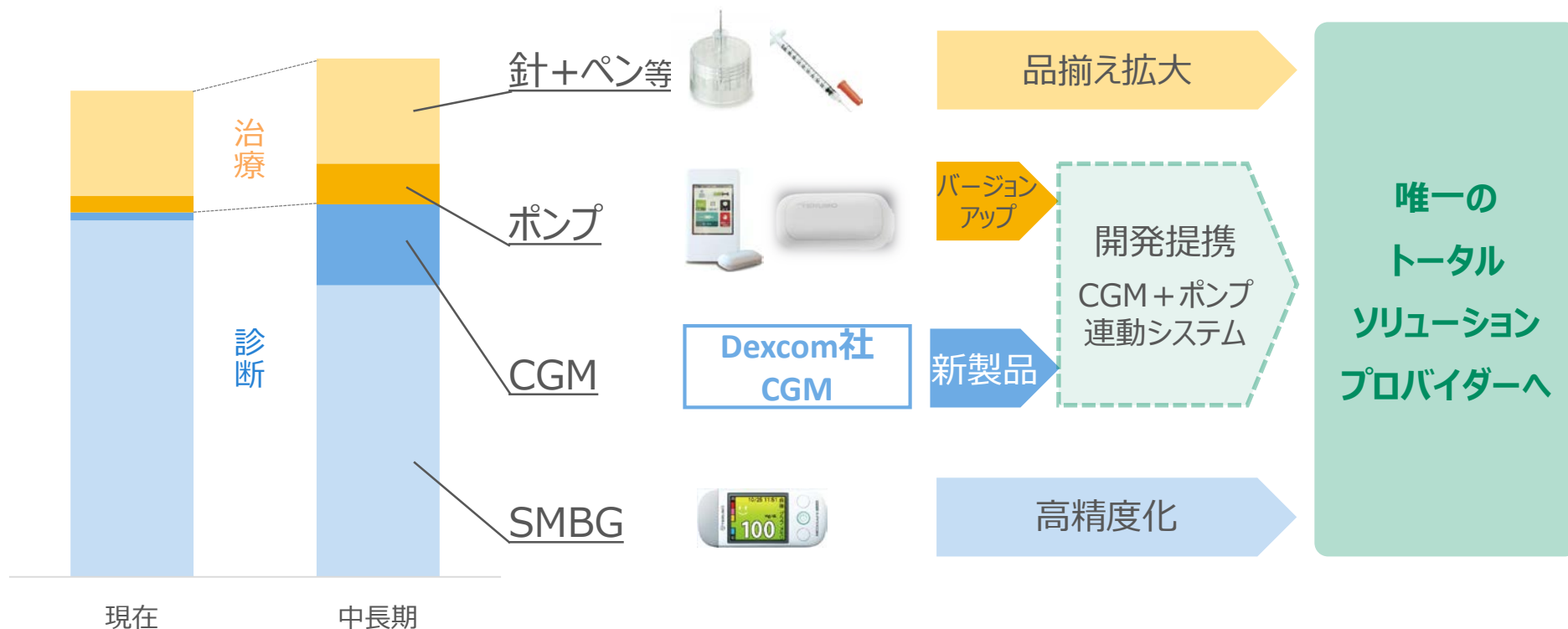


# DM事業：世界No.1CGMの国内独占販売権獲得

- 米国Dexcom社のCGM（持続血糖測定器）における日本での独占販売権取得
- FY18に販売開始。段階的に新製品を導入予定
- CGMとインスリンポンプの連動システムにおける共同開発を検討

国内市場イメージ

テルモの方向性



# 17年度期末配当は27円に増配予定

- IFRS移行後も安定的に配当を増やし、中長期的に配当性向30%を目指す
- 17年度年間は50円に増配予定
- 18年度は年間54円とし増配維持

単位：億円、IFRSベース

	17年度 実績	18年度 予想
当期利益	913	835
EPS(円)	258	236

配当案/株	46.0円 中間23.0 期末23.0	50.0円 中間23.0 期末27.0	54.0円 中間27.0 期末27.0
IFRS配当性向		19.3%	22.9%

# 参考資料

# 事業別・地域別売上収益と伸長率

(億円)

事業 セグメント	日本	海外					合計
		計	欧州	米州	中国	アジア	
心臓血管	540 (+6%)	2700 (+22%)	843 (+20%)	1195 (+26%)	339 (+16%)	323 (+20%)	3240 (+19%)
うちカテーテル※	408 (+5%)	2178 (+22%)	674 (+17%)	920 (+29%)	316 (+15%)	268 (+20%)	2586 (+19%)
ホスピタル	1227 (-1%)	361 (+1%)	87 (-1%)	81 (0%)	23 (+14%)	171 (0%)	1588 (-1%)
血液システム	119 (-1%)	928 (+7%)	252 (+4%)	441 (+8%)	53 (+17%)	181 (+8%)	1047 (+6%)
合計	1889 (+1%)	3989 (+16%)	1182 (+15%)	1716 (+20%)	415 (+16%)	676 (+11%)	5878(+11%)

※ニューロバスキュラー事業含む  
( ) 内は為替影響除く前年比伸長率

# 販管費 (IFRS)

(億円)

	16年度 累計	17年度 累計	増減	増減率	為替除く 増減率
人件費	739	844	+105	+14%	+11%
販促費	156	178	+22	+14%	+11%
物流費	107	126	+19	+18%	+15%
償却費	126	137	+11	+9%	+7%
その他	381	425	+44	+12%	+9%
<b>一般管理費計</b>	<b>1,509 (29.4%)</b>	<b>1,710 (29.1%)</b>	<b>+201</b>	<b>+13%</b>	<b>+10%</b>
<b>研究開発費</b>	<b>324 ( 6.3%)</b>	<b>413 (7.0%)</b>	<b>+89</b>	<b>+28%</b>	<b>+26%</b>
<b>販管費合計</b>	<b>1,833 (35.7%)</b>	<b>2,124 (36.1%)</b>	<b>+291</b>	<b>+16%</b>	<b>+13%</b>

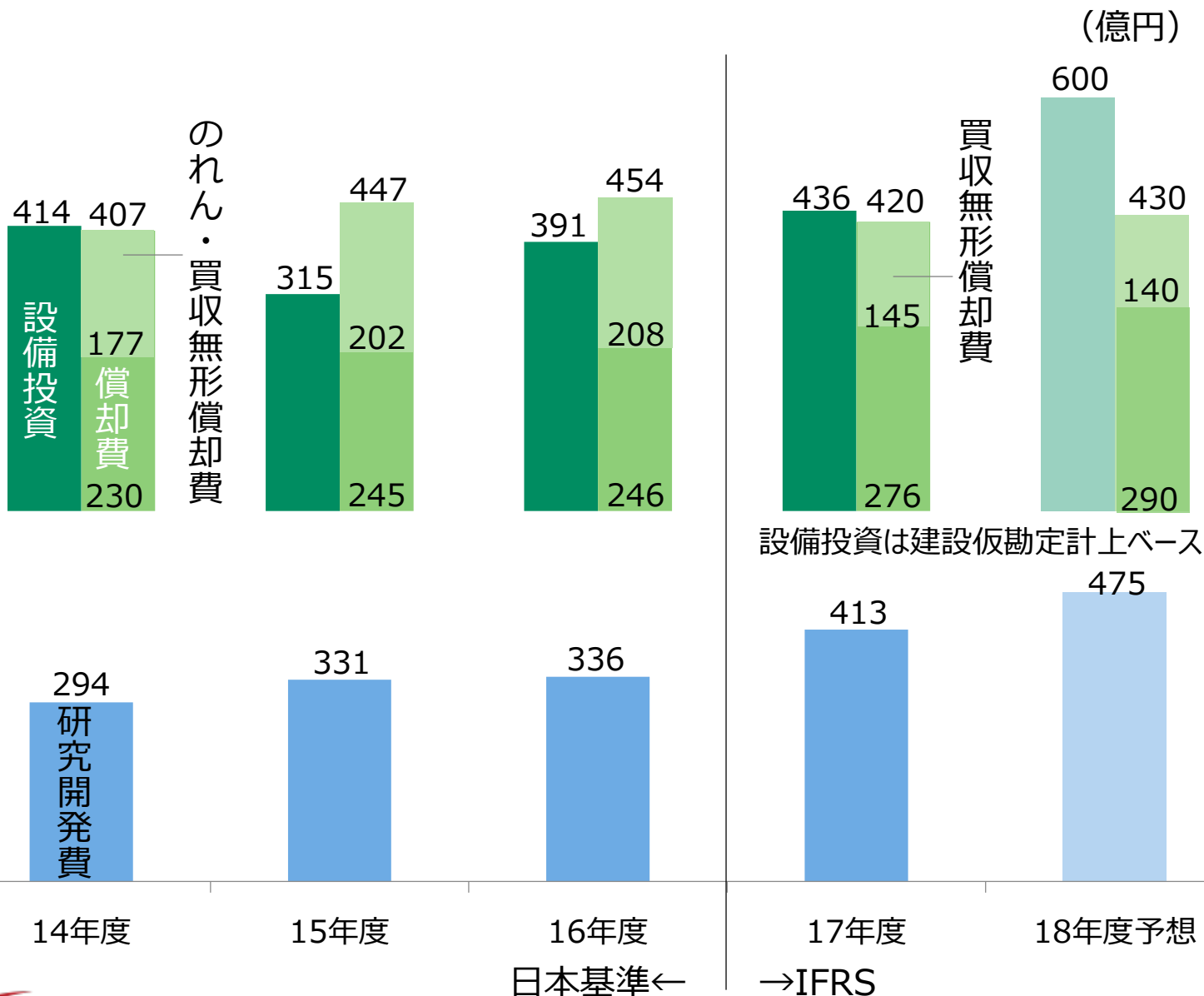
# 四半期の動き

(億円)

	日本基準	IFRS			
	16年度Q4 (1-3月)	17年度Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)
売上収益	1,398	1,393	1,453	1,523	1,508
粗利益	743 (53.2%)	759 (54.5%)	795 (54.7%)	832 (54.6%)	807 (53.5%)
一般管理費	474 (34.0%)	402 (28.9%)	412 (28.4%)	438 (28.7%)	459 (30.4%)
研究開発費	92 (6.6%)	85 (6.1%)	98 (6.7%)	107 (7.0%)	124 (8.2%)
その他収益費用	-	12	2	6	- 4
営業利益	177 (12.6%)	284 (20.4%)	287 (19.8%)	294 (19.3%)	220 (14.6%)
調整後営業利益	-	321 (23.0%)	328 (22.6%)	327 (21.5%)	274 (18.1%)

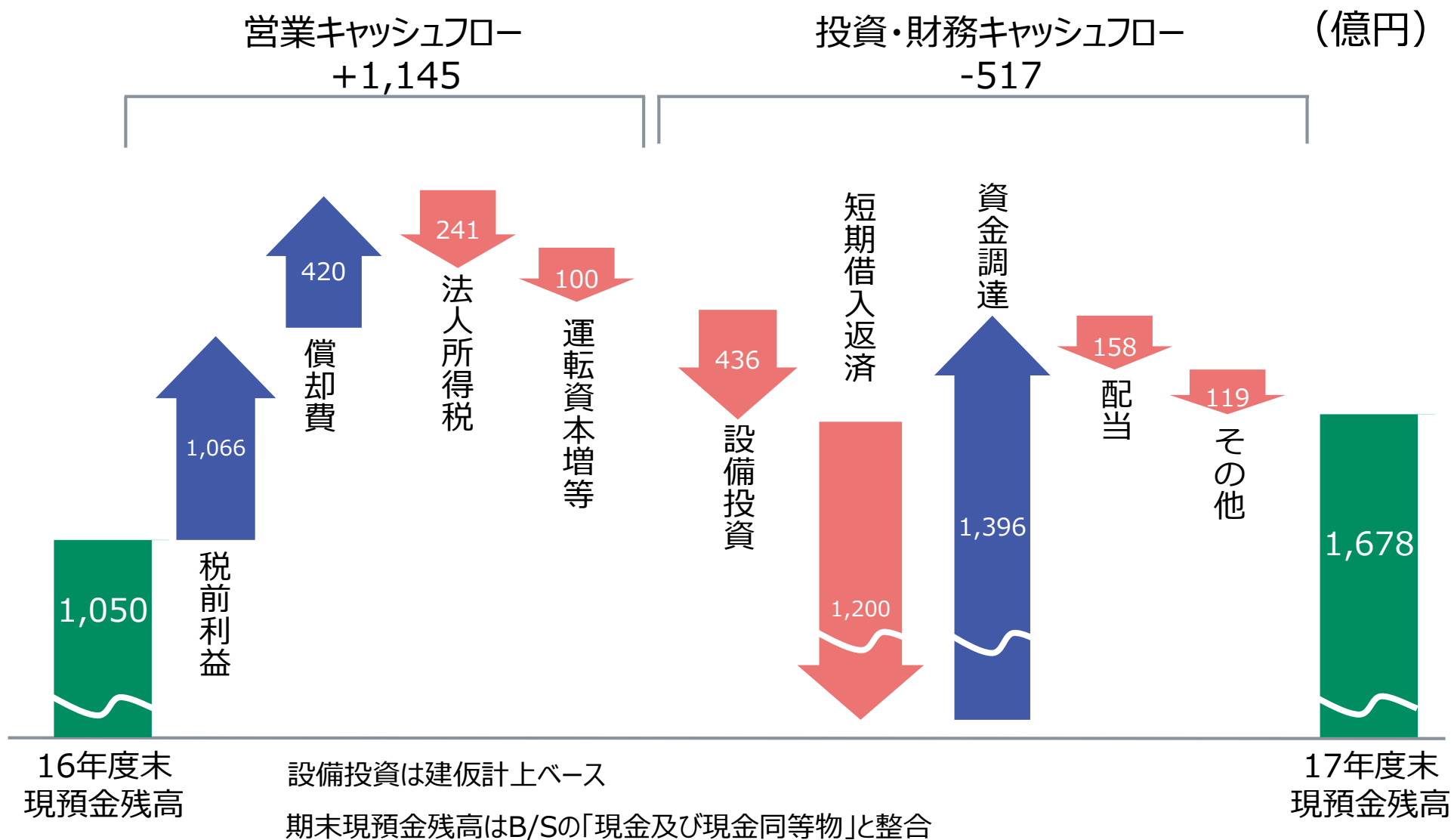
四半期	USD	114円	111円	111円	113円	108円
平均レート	EUR	121円	122円	130円	133円	133円

# 設備投資と研究開発費



- 18年度は、増産設備、生産スペース、IT投資を拡大
- 17年度以降はIFRSベース
  - 買収以外の無形固定資産取得、開発費の資産化含む
  - のれん償却費除く
- 主に北米にてカテーテル・ニューロの開発活動を促進
- 開発費の資産化は設備投資に含む
  - 17年度：8億円
  - 18年度予想：21億円

# 17年度キャッシュフロー(IFRS)





# 為替感応度

(億円)

	USD	EUR	人民元
売上収益	16	8	20
調整後営業利益	0	5	10

<参考> 10%変動時のインパクト

	北米	中南米	欧州		アジア	
			ユーロ圏	その他	人民元	その他
調整後営業利益	-1	9	60	13	17	33

# 転換社債の状況

## ■ 社債明細 (2014年12月起債)

満期	発行額 (億円)	金利	転換価格 (円)	転換制限 価格 (円)	転換の場合 必要となる株数
2019年12月	500	0.0%	3,868	5,028	12.9百万株
2021年12月	500	0.0%	3,868	5,028	12.9百万株
計	1,000				25.9百万株

### ➤ 転換行使による株式交付は自己株式を充当

- 自己株式の状況 (2018年3月末時点) 取得単価3,896円、26.1百万株、発行済株式総数比6.9%

## ■ 転換状況 (2018年3月31日時点)

対象社債	転換行使額 (対象社債総額比)	交付株数 (発行済株式総数比)
2019年12月満期	64.7億円(12.9%)	1.7百万株( 0.44%)
2021年12月満期	0.6億円( 0.1%)	0.02百万株(0.004%)

# おことわり

---

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。